

SA吹田

二十年の歩み



2010年3月

目 次

会長挨拶	2
S A吹田創立 20 周年を迎えて>	S A吹田 会長 小川忠夫
ご祝辞	3
< S A吹田発足 20 周年を祝して>	吹田市 市長 阪口善雄
< S A吹田 20 周年をお祝いして>	吹田市社会福祉協議会 会長 立川浩次
< S A吹田創立 20 周年を祝す>	大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会 理事長 和佐義顕
～ S A吹田 20 周年に寄せて ～	6
< 第 2 代会長 池田明義さん訪問記>	
< 第 4 代会長 菊池恭子さん訪問記>	
< S A吹田の継続・発展を願う>	第 5 代会長 三宅 博
< 第 6 代会長 木田隆三さん訪問記>	
< 創立 20 周年を祝して>	第 7 代会長 入江道三
< 20 周年を過ぎて期待すること>	第 8 代会長 丹羽史朗
< S A吹田通信の定期発行に貢献>	第 9 代会長 武内信憲
< 「心ふれあいネット」発足>	第 10 代会長 佐藤宏一
～ S A吹田のあゆみ ～	12
～ S A吹田の活動状況 ～	14
< 「おもちゃ部会」の活動>	
< 「歌体操部会」の活動>	
< 「吹田歌体操交流会」活動>	
～ 共に活動する仲間たち ～	28
< S A吹田おもちゃづくり市民塾>	
< MUS の会>	
< エコおもちゃ作り市民塾>	
～ S A吹田と私 ～	37
< 歌体操への思い>	橋本一江（6 期）
< 当時を想う>	橘ユミ子（14 期）
< 知られざる取り組み>	三好桂子（13 期）
< 私の趣味：マジックとボランティア>	見並泰男（19 期）
～ 資料 ～	
< S A吹田の活動と助成金>	11
< S A吹田歴代役員（2002～2009 年度）>	40



S A吹田創立20周年を迎えて

S A吹田 会長 小川忠夫

S A吹田の創立20周年にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

大阪府シルバーアドバイザー養成講座が吹田市の山田の地に開設されて20年。

S A吹田も幾多の苦難を乗り越えて今日の姿を迎えることが出来ました。皆様と共に慶びを分かち合いたいと思います。

先輩諸氏が書き残された歴史を振り返ってみても、その道のりは多くの険しい道であった事が覗えます。

シルバーアドバイザー養成講座を終了してもS A吹田の会員になるか、ならないかは、夫々の自由ですから、S A吹田としては修了生に会員になっていただけるかどうか大きな課題でした。そして会員の皆様が継続して活動に参加していただけた事がS A吹田の活動を支え、20周年を迎えることが出来た原動力であると思っています。

幸いにしてここ数年の会員数は120名～140名を推移して、その活動も大阪府下のS Aの中でも最も活発であるとの多くの評価を得ています。

現在の活動は、①おもちゃ部会 ②歌体操部会 ③国際交流部会 ④福祉部会 ⑤ブロック活動部会の5つの部会活動とボランティア養成を兼ねた「吹田市まちづくり市民塾」の活動や「福祉ボランティア派遣事業」に取り組んでいます。地域社会の課題

に積極的に取り組む事によって徐々にその存在が認知されつつあると感じています。

今から7年前S A吹田が崩壊の危機に陥り、活動を継続する事が出来なくなってしまい、機能を失った時期があったことを皆様ご存知でしょうか。

幸いにして、その後の先輩諸氏のご努力により、まもなく再建され活動はそれまで以上に活発に展開される事になり今日に至っています。

組織（S A吹田）はまさに生き物である事を物語っています。生き物である以上時には簡単に消滅してしまいます。我々の務めはその事を認識して絶えず組織を点検して、活動の停滞や衰退を防ぎ、世代交代や刷新を進め、革新しながら活動を進める事であると思っています。

社会貢献をするという、ボランティア活動に対する価値観の共有はS A吹田の活動の基本です。自分がどのようなボランティア活動に取り組むのかは全く個人の意思です。

その事をS A吹田という組織においてうまくコーディネートする事が、個人の活動を更に活性化させ、S A吹田の活動を今後も絶やすことなく続けていく基本だと考えています。20年間続いたS A吹田の活発な活動が今後更に10年、20年と続く事を祈念しご挨拶にかえます。



S A吹田発足 20 周年を祝して

吹田市長 阪口 善雄

S A吹田が創立 20 周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

S A吹田の皆様におかれましては、シルバーアドバイザー養成講座で培われた知識や経験、行動力を生かし、地域社会のリーダーとして活躍しておられます。設立以来 20 年の長きにわたる活動は、歴代の役員をはじめ会員の皆様のたゆまぬ努力や行動力の賜物と深く敬意を表する次第です。

また、従来の「おもちゃ作り」や「歌体操」に加え、「国際交流」や「福祉教育支援」へと活動の幅を広げておられ、本市のまちづくりに大いにご貢献を賜っておりますことを力強く思っており、今後ますますのご活躍をご期待申し上げます。

さて、本市は本年、市制施行 70 周年を迎えます。この大きな節目を、皆様とともにお祝いできますことを喜ばしく思いますとともに、今後とも、皆様の豊かな経験に裏打ちされたお知恵やお力をお借りし、市の将来像「人が輝き、感動あふれる美しい都市 すいた」実現をめざし施策の一層の充実、発展に努めてまいりたいと存じますので、さらなるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、皆様のご健勝と、S A吹田のますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

平成 22 年 3 月



SA 吹田 20 周年をお祝いして



吹田市社会福祉協議会

会長 立川 浩次

このたび、SA 吹田がめでたく 20 周年を迎えられますことを心からお喜び申し上げます。

また、これを機会に記念誌を発行されることは、これまでの皆様方の積極的な活動を振り返り、今後新たな一步を踏み出すうえで大変貴重な指針となり、まことに意義深いことと存じます。

皆様は高齢となられても、なお奮起して学習され、シルバーアドバイザーとなり、その長年にわたり培った経験や、知識、技術、特技を活かして、さまざまな社会貢献や地域交流をされてこられました。その皆様 SA 吹田が 20 年の長きに渡り、開拓精神と創意工夫をもってさまざまなボランティア活動や地域貢献活動をされてきましたことに深く敬意を表す次第でございます。吹田市社会福祉協議会では、「誰もが安心して暮らせる住よいまちづくり」を目指して、住民相互の支え合いを推進してまいりましたが、まさに皆様方の活動と想いを一つにしたものだと理解しております。当会の福祉教育の授業では皆様の惜しみないご協力を得

て実施をしており、児童生徒も大変興味深く、また関心を持って車いす体験やアイマスク体験などを行っており、幼少期から福祉の心を育む良い機会となっています。ご協力に対し、心から感謝を申し上げます。

また、当会では平成 22 年度から始まる 5 か年の地域福祉活動計画を策定しました。この計画では「ひとりひとりが地域に参加、みんなが主役のまちづくり」を掲げています。今後も共に支えあう地域福祉の担い手として、貴会をはじめとする市民活動団体やボランティア団体の果たす役割はますます重要になってくるものと思われまふ。当会、吹田市ボランティアセンターといたしましても、皆様方のボランティア活動や地域貢献活動をさらに応援させていただき、貴会からますますボランティアの輪が広がること、また合わせて、皆様がいつまでもお元気でご活躍される事を願っております。

最後になりましたが、SA 吹田のさらなるご発展と会員の皆様のご多幸をご祈念申し上げ、20 周年のお祝いの言葉とさせていただきます。



S A吹田創立20周年を祝す

大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会
理事長 和佐義顕

S A吹田創立20周年おめでとうございます。

吹田の地に「シルバーアドバイザー養成講座」が開講されて20年過ぎました。

多くの先輩の方々の熱き想いと並々ならぬご努力とあいまって、吹田の皆様のたゆまぬ活動の成果があって、今日の姿が実現したと思います。

S A連協も時を同じくして結成20周年を迎えます。結成当時から吹田の皆様は活動の中核として会の運営に寄与いただいたことは、古い資料などひも解いて見ますと如実に現れております。以来今日までS A連協のリーダー役として歴代の重要役職を担当していただきS A連協発展のためにご支援いただきましたことに対し、心から敬意を表しますと共に厚く感謝申し上げます。

SA 吹田の活動振りは色々な場面でお聞きする機会が数多くあり、そのたびにその活動の広さ、深さ、多彩さには感服しております。今後ともS A連協に対して一段のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

さて、大阪府の財政事情により、長い歴

史を閉じた大阪府老人大学、シルバーアドバイザー養成講座はNPO大阪府高齢者大学校として出発し、シルバーアドバイザー養成講座も従来の4科目から2科目に減少しながらも何とかその火を消すことなく90名の第一期生を送り出す事が出来ました。今後の地区S Aにとって大きな戦力となり活動される事を期待しています。

最近のボランティア事情はことのほか厳しい状況で、高大のシルバーアドバイザー養成講座への入学希望者の激減、ボランティア志向者の減少、ボランティア活動者の高齢化等々あり、我々が取組む最大の課題はボランティア人口の拡大とS A活動員の確保と考えています。

S A吹田の皆様におかれましては、今後の超高齢社会の中にあって地域のまちづくり活動の中心となって活躍され、地域のリード役としての更なる活動を期待するとともに、貴会の益々のご隆盛と会員の皆様のご健康とご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

～ S A吹田 20 周年に寄せて ～

歴代会長からの聞き取り取材やお寄せいただいた寄稿文をもとに編集させていただきました。ご協力いただきましたことに感謝申し上げます。



第2代会長 池田明義さん訪問記

～ 初期の「S A吹田」と「大阪府連協」～

シルバーアドバイザー養成講座は 1988 年 4 月に発足した。その時池田氏は当時の老犬 10 期生だった。「シルバーアドバイザー」の命名主は当時の岸昌知事で、知事はすごくよい命名であったと後で自讃しておられたそうである。

1989 年（平成元年）S A 1 期生が修了し「S A吹田支部」が初代会長射庭義治氏でスタートした。

池田氏は S A 2 期生として講座を受講。

1990 年 3 月に講座修了と同時に「S A吹田支部」に入会、のちに会長職を引き受けられることになる。

当時の S A吹田支部は地域が広いために 4 地区に分かれて夫々ボランティア活動を実施しており、支部としてはその報告を受けていた。

本部がなくて支部とはおかしなことではあるが、講座主催の教務室から修了後の地域での活動のために、各地域で支部を結成するよう指導があつて、大阪府下各地域で支部が設立された（現在の各地区 S Aである）。

支部の動向や活動の情報交換のため、各支部長による支部長会議が月に 1 回開催されていたが、やがてそれが S A連協結成に繋がっていく。

1990 年（平成 2 年）11 月 10 日、「大阪

府 S A連絡協議会」が発足することになり、既に「S A吹田支部」の 2 代目会長になっていた池田氏が S A連協の初代会長に就任した。

1992 年（平成 4 年）5 月には会報「シルバー通信」創刊号が発行されており、これは、池田氏の功績である。その創刊号によれば、当時は S A吹田支部も S A連協も総会を 10 月とか 11 月に開催している。

さて、池田氏は来年米寿を迎えられる。親しかった身内や知友が次々この世から去っていくのを見送り、今では悲哀よりも大自然の営みを静かに感ずるようになられたそうである。

岳父が戦前の高官であられたため、会議や宴会などでいつも帰宅が遅くなるので、家族の団欒を知らずに子供時代を淋しく過ごされた奥さんの結婚の条件は「出世しないこと」だったそうです。しかし今は多くの孫や曾孫に囲まれた楽しい団欒の日を月に一度はもたれるようになり、奥さまもそれをすごく楽しみにしておられます。

その子たちの発育を見ながら、大宇宙の天体の運行には「生命」があり、人間の生命（魂）もそこから生まれてそこへ還ってゆく、そんな気持ちの毎日だそうです。

（取材 松川 裕）



第4代会長 菊池恭子さん訪問記

江坂にお住まいの菊池さんを訪問しました。

つい最近まで、第四ブロックの交流会や、歌体操にも参加され元気振りをお見せいただいていた。さすが最近足腰が多少弱くなって活動もあまり出来にくくなったとのことでした。近所に自営業の息子さんのご家族がお住まいで楽しくお暮らしのようです。

菊池さんが御活躍されていた当時は、SAの活動は連協の活動が主体であり連協の

役員にも吹田支部から多くの方々が選出され活動された様子をお聞きました。吹田支部もブロック活動が行なわれ11ブロックに分かれたが、実際の活動はなかなか難しくいろいろご苦労されたようです。今後はできるだけ体力が許す限り、SA吹田のブロック交流会や歌体操にも参加したいとの事でした。年齢を感じさせないしっかりした語り口で当時の事をお話いただきました。

(取材 小川忠夫)



SA吹田の継続・発展を願う！

第5代会長 三宅 博(5期)

SA吹田の皆さまこのたびは創立20周年を迎えられ心よりお喜び申し上げます。

早いもので平成5年にSA養成講座でいろいろ勉強させていただき15年以上になります。

長年企業組織の中で過ごし身に付けた「常識」だけでは、奉仕活動のあり方や皆さんの意見を集約することの難しさを悟られ、いろいろなことを勉強させて貰いました。

しかしそれらを乗り越え、皆さんとともに行う活動によって、結果が出ると喜んで貰い、やりがいを感じるようになりました。

現在は高齢爺いですが「おまけ奉仕活動」として、老人会と慰問グループのリーダーを楽しんでおります。SA吹田が引き続き後輩のためには是非継続・発展できますよう願っています。



淡路島旅行にて 93-11-20

第6代会長 木田隆三さん訪問記

阪急北千里駅の近所にご夫婦でお住まいの木田隆三さん。15年前、70歳過ぎにシルバーアドバイザー養成講座で勉強され、その当時の立派な修了記念アルバムを見せていただいて、びっくり仰天した。何と若々しく活気に満ち溢れた活動ぶりがそこにあった。

15年経った現在、我々がそれなりの活動をしていると自負しているが、何とそれは当時の先輩の方々がやってこられた事をそのまま引き継いでやっているに過ぎないことを痛切に感じた。

88歳を超えて、当時の活動ぶりやお仲間のお名前が次々と出てきたり、当時の多くの資料が残っていることなど感服する以外何もない。同期生であった橋本一江さんや唐崎キミ子さんの若々しい活動ぶりの写真

に出会って改めて当時の闊達さを感じた。

友達関係では奥様もご一緒のようで、奥様の口からも私が知っているお仲間の名前も多くでて、ご家族ぐるみのお付き合いの様子を垣間見ることができました。

穏やかなお話しぶりであったが、若かりし頃の活動ぶりをしっかり聞くことができ、さわやかな感じを持ちながらお宅を後にしました。
(取材 小川忠夫)



創立20周年を祝して

第7代会長 入江道三（7期）

SA吹田創立20周年を迎えられたこと、心よりお喜び申し上げます。

顧みますれば、私が会長を務めさせていただいた時期が、今迄の中間の節目の年でもあったように思います。

その大事な時期に、一時的にも休会し会長を退任したことに心を痛めてまいりましたが、それから10年の現在、吹田市各所において活躍しておられるSA吹田の会員の方々に対しまして、敬意を表するとともに

私自身これで良かったとホットしています。

SA吹田の活躍は、各修了期グループの結束とグループ間の連携について、上手に仕分け・運営がされている結果からだと拝察いたします。

私も現在、地区福祉委員会でのボランティア活動に参加させて頂いていますが、各地区とも人材が非常に不足しています。

SA吹田会員の皆様には、余力がありましたら、ご自分の地区福祉委員会のボランテ

ィア活動にも目を向けていただければ幸甚に存じます。

この創立 20 周年を契機に、S A吹田の更

なる発展を期待申し上げるとともに、会員皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



20周年を過ぎて期待すること

第 8 代会長 丹羽史朗（12 期）

20 周年おめでとうございます。

20 年といえば、漸く成人になったと言うことでしょうか。基礎を築かれた一桁台の修了期の諸先輩の営々としたご努力に敬意を表する次第です。

ただ、私たちが修了した平成 12 年頃は S A 吹田の停滞期で、組織としてのまとまった行事はバス旅行と名簿の発行のみだったと思います。

歌体操もおもちゃづくりも、個人の活動に任されているという状況で、大いに失望した私たち同期（12 期）生 26 名のうち、S A 吹田に入会した者は数名でした。結局、入会した人たちを含めた同期生で「S A 12 吹田」（後にサア 21 吹田）を結成し、毎月例会を開催しておもちゃづくりや歌体操を少しずつ覚えていきました。

当時の S A 吹田の幹部からは、反旗を翻したのではとか、分派活動ではないかとか、批判もされていたようですが、グループとして機能するためには、やむを得なかったと自己評価しています。

そんな私たちに、休会した S A 吹田を立て直

して欲しいと依頼があったのは、皮肉としか言いようがないと感じたものでした。

復活後のことについては S A 吹田通信 71 号に、顧問就任の弁として書きましたので省略しますが、かれこれ 10 年ほどに亘って、S A 吹田の発展に結果的に寄与できたことは、何よりの慶びだと思っています。

府政の「事業見直し」の煽りを受け、S A 養成講座は老人大学ほかと協同で、NPO 大阪高齢者大学校に変身しましたが、これを契機にして一般の方々でも S A 吹田に入会できるようにする動きが具体化してきています。「心ふれあいネット」がそうです。

S A 修了者以外の方々も迎え入れたいという私の年来の思いが漸く実現しそうで、S A 吹田の輪をより一層地域に広げていくものと、大いに期待しています。





S A吹田通信の定期発行に貢献

第9代会長 武内信憲（15期）

S A吹田の創立 20 周年おめでとうございます。シルバーアドバイザー養成講座の会場が山田の大阪府老人総合センターで行われていたため受講生は特に他の地区に比べても多く、また、年度によって多少違いがありますが殆どの方が修了後地区の会に入会されていた。修了を控えて地域交流会があり、当時の丹羽会長が説明に来られて、おもちゃづくりや歌体操など地域での活動が活発に行われていることが紹介されたので修了後入会することになった。

先ず情報発信のための会報を発行することになった。1 号からのバックナンバーは引継ぎのとき広報担当者にすべて引き渡しましたが、毎月のことで、活動状況を広報誌に発表することで、会員の皆様の参加意識を高めることに気を配った。

市内 4 ブロックの単位で会報の手配り

をお願いして、皆様の協力で手配りが定着できた。

おもちゃ作りのグループに続いて、歌体操では多くのグループがあり活動されていたので、そのグループを中心に多くの方の参加を呼びかけるための定例歌体操グループの集まり「歌体操懇談会」を持った。また、修了年度ごとのグループが活動を進めていたのでおもちゃづくり、歌体操、その他の活動種目ごとの応援体制作りを活発にするよう皆様の協力のもとに縦・横の関係を進めることができた。

S A連絡協議会の事務局担当を兼務のため、毎月定例会があり結構忙しかったことが思い出されます。これからも組織の輪が広がり活動が益々活発になることを期待します。



「心ふれあいネット」発足

第10代会長 佐藤宏一（18期）

現在、私は大阪府高齢者大学校の運営に関して 2 年目を迎えます。

まさか、旧老人大学とシルバーアドバイザー養成講座を受講し、その後、自分自身がこの大学校のカリキュラム構築を

含めた運営を直接行うことになるとは、信じられない思いである。

その意識にかり立たせられたのが、SA 吹田の活動時期が一番だったと思う。

2006 年に何もわからずに、SA 吹田に

入会した。グループごとのボランティア活動はおこなわれているのだが、SA 吹田の組織の求心力が欠けていた。これを活性化するにはどうしたらよいか。

そこに、生まれたのが 2007 年度の「心ふれあいネット」でした。

SA 吹田の事業の柱として、

①高齢者ケア

②子どもの健全育成

③コミュニティーづくり

の実践活動を展開しました。

SA 出身者以外の人たちの参加を認めたことが、大きな活動の動きとなりました。

これからの大阪府高齢者大学校は、社会貢献に結び付く動機付けと、実践活動をカリキュラムに取り組んでいきます。そのことが SA 吹田のますますの社会活動の活性化に役立つことになると願っています。

【2007 年当時の思い出の一コマ】



在宅リハビリ歌体操研究所
2007-10-26



ブライト・ウォーク研修
2007-10-14



青山台小学校の国際交流活動
吹田ケーブル 2007-11-24

資料：SA 吹田の活動と助成金

会費やボランティア先でのご支援以外に大阪府、吹田市、その他財団からの助成金を活動の資金として役立たせて頂いています。

ご支援いただいた助成金と活用内容は次の通りです。
ご紹介しご支援に感謝いたします。

2007 年	大阪府先導モデル支援事業	「心ふれあいネット」活動
2008 年	大阪地域福祉基金（3 年間）	「小学生と外国人の交流授業」支援
2009 年	吹田市市民公益活動	「福祉ボランティア派遣事業」
	ニッセイ財団	「福祉教育」支援事業

～ S A吹田のあゆみ～ (1989～2009)

この記事は、SA 吹田通信、シルバー通信に掲載された記事を参考にするとともに、諸先輩方からの貴重な資料提供や聞き取り取材によるものです。ご協力ありがとうございます。

1989 年度（平成元年）

- ・吹田出身の SA 第 1 期修了生（26 名）が、養成講座修了後地域福祉の活動を開始。
- ・初代会長に射庭義治氏を選任。

1990 年度（平成 2 年）

- ・11 月に大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会（以下連協という）が発足し、SA 吹田も参加。
- ・2 代会長の池田明義氏が連協の初代会長に就任。

2001 年度（平成 13 年）

- ・SA 吹田としての活動が停滞気味になり、役員のなり手も減り 5 月の総会で休会を決議。
- ・この年の秋以降、連協の幹部から呼びかけがあつて、SA 吹田を再興する動きが始まる。

2002 年度（平成 14 年）

- ・6 月に再建総会を開催。新会長（8 代）に丹羽史朗氏を選任して再発足。丹羽氏は連協の総務も務める。
- ・「吹田市まちづくり市民塾おもちゃづくり市民塾」（現在の「S A吹田おもちゃづくり市民塾」の前身）が発足。

2003 年度（平成 15 年）

- ・5 月 14 日定時総会を開催。（会員数 77 名）
- ・府立千里高校との第 1 回「高齢者交流会」を実施。
- ・機関誌「SA 吹田通信」の創刊号を発行。
- ・ブロック活動の機動化、活性化を目的にブロックを集約。（10 ブロック→4 ブロック）
- ・北千里会館で全体集会を開催し、会員へ活動状況、今後の企画などを説明。

2004 年度（平成 16 年）

- ・4 月 21 日、定時総会を開催。（会員数 90 名）
- ・公園遊具の安全確認のお手伝いをする、「公園を見守ろう会」の活動を開始。

2005 年度（平成 17 年）

- ・4 月 25 日定時総会を開催。
- ・新会長(9 代)に武内信憲氏を選任。武内氏は連協の事務局長も務める。
- ・「歌体操懇談会」が発足。
- ・SA 吹田全員集会を開催、各部会、グループから活動状況を報告。
- ・毎年千里南公園で開催している“よっといで祭り”に、「手作りおもちゃ」で初参加。
- ・第 1 回 SA 吹田歌体操教室を開催（10 月）。
- ・吹田市の「お迎え市長室」に参加。SA 吹田の活動内容を、各グループのリーダーより説明。
- ・第 2 回 SA 歌体操教室を開催。（2006 年 2 月）

2006 年度（平成 18 年）

- ・ 4 月 26 日定時総会を開催。（会員数 124 名）
- ・ 第 3 回「SA 吹田サロン」（従来の SA 吹田歌体操教室を改称）開催。（8 月）
- ・ 第 4 回「SA 吹田サロン」開催。（2007 年 1 月）
- ・ 第 1 回「吹田歌体操交流会」開催。（2007 年 3 月）

2007 年度（平成 19 年）

- ・ 4 月 26 日定時総会を開催。（会員数 142 名）
- ・ 新会長（10 代）に佐藤宏一氏を選任。佐藤氏は連協の事務局長も務める。
- ・ おもちゃ懇談会、国際交流懇談会、ブロック懇談会を新設。
（歌体操懇談会と共に 4 懇談会体制になる）
- ・ 大阪府の先導モデル支援事業が SA 吹田に認可され、“心ふれあいネット”の名称で活動を開始。
- ・ SA ハウス開設。（SA 吹田の活動拠点として山田市場に開設）
- ・ 「SA 通信」50 号を達成。
- ・ SA 田のホームページを開設。
- ・ 「イン吹田・いきいき歌体操」グループの社会福祉活動に対し、大阪府知事より表彰を受ける。

2008 年度（平成 20 年）

- ・ 4 月 25 日定時総会を開催。（会員数 127 名）
- ・ 新会長（11 代）に小川忠夫氏を選任。
- ・ 懇談会を部会に改組、専門活動の強化を図る。
（おもちゃ部会、歌体操部会、国際交流部会、ブロック部会の 4 部会体制になる）
- ・ 佐藤宏一氏、連協の理事長に就任。
- ・ 吹田市まちづくり市民塾に「エコおもちゃ作り市民塾」が認定される。
- ・ 阪口市長と SA 吹田の懇談会開催。（お迎え市長室）
- ・ “SA 吹田おもちゃづくり市民塾”が吹田市長より「地域奨励賞」を受賞。
- ・ 市長との懇談のフォローをするため、吹田市と SA 吹田との意見交換会を開催。

2009 年度（平成 21 年）

- ・ 4 月 30 日定時総会を開催。（SA 吹田会員 130 名、心ふれあいネット会員 25 名）
総会後、日ごろの活動を広く一般市民に紹介する SA 吹田サロンを開催。
- ・ 小川忠夫会長、連協の副理事長に就任。
- ・ “大阪府シルバーアドバイザー養成講座”の廃止にともない、NPO 大阪府高齢者大学校が発足。
- ・ 福祉部会を新設。
- ・ “福祉ボランティア派遣事業”を開始。
- ・ “歌体操介護予防ボランティア市民塾”が発足。
- ・ “御堂筋 KAPPO 2009”に、おもちゃ作りで参加。
- ・ 高齢者大学校第 1 期受講生との交流会に参加し、SA 吹田の活動状況等を説明。

歴代会長（敬称略）

初代 射庭 義治	5 代 三宅 博	9 代 武内 信憲
2 代 池田 明義	6 代 木田 隆三	10 代 佐藤 宏一
3 代 前田 秋	7 代 入江 道三	11 代 小川 忠夫
4 代 菊池 恭子	8 代 丹羽 史朗	

～ S A吹田の活動状況 ～

「おもちゃ部会」の活動

～飛躍させよう！おもちゃづくり～

S A吹田創立20周年おめでとうございます。
私（八木）が始めておもちゃづくりに参加したのは、2004年のことでした。

現在の「S A吹田おもちゃづくり市民塾」の前身である「吹田まちづくり市民塾おもちゃづくり塾」が、丁度 誕生したばかりの頃でした。

SA12、13 期修了者が中心で小学校や公民館などで独自に活動されていました。2005年 S A吹田企画役員になった時には市制すいたのイベント参加依頼は全て市民塾が窓口だったので、意見を聞きながら規模に応じた、おもちゃづくり会員を集めるのがおおきな役目でした。

2007年、市民塾、各期生、各グループの代表が集まる「おもちゃ懇談会」が発足、これまではイベントでは顔を会わせても、ゆっくり相談する事はなく、先方の方針などを聞き相談したい時、その都度、取り決めて一緒になってやらせていただきました。

もっと風通しを良くしよう、意見も聞こうと提案したところ、「おもちゃ懇親会の初代の会長を」と云われ、自分は丁度中間クラスだから、色々な意見を聞きながらやっていこうと思い世

話人を引き受けました。

2008年、S A吹田での名称が「おもちゃ部会」と改まり、そして第2市民塾である「エコおもちゃづくり市民塾」も立ち上がりました。

吹田市より助成金を頂き会員 24 名、講師 1 名のメンバーで小刀を使って5ヶ所を訪問、その内容は、5月・山五公民館、8月・吹田市立博物館、いのこ谷コミュニティセンター、10月・御堂筋 Kappo、などに参加する事が出来て、従来牛乳パックや手短な材料でつくる手づくりおもちゃに加え、クラフト工作で竹細工や木っ端工作と幅広く躍進しました。

吹田の大きなイベントとして春の千里北公園の『こども野外カーニバル』、秋の千里南公園での『よっといで祭り』などがあり、これらのイベントにおもちゃ部会がまとめ役として、参加者に声をかけ総動員しています。その他では、小学校での毎月の指導、公民館、子育て支援でおもちゃづくりをおこなっています。



いのっ子祭り



東佐井寺小（布草履）



よっといで祭り

現在おもちゃ部会の役員は約10名ですが、超高齢者にはこれ以上ご負担はかけないようにして、メンバーの若返りを図りたいと思います。おもちゃつくりのまとめ役として、今後の方向について私見を述べたいと思います。

- 1、おもちゃつくりのメンバーも、以前にくらべ増えてきてうれしく思います。まだ両市民塾、各同期・グループの活動に各々のこだわりもありますが、大きなイベントには、SA吹田「おもちゃ部会」からのお願いで、垣根を越えて集結できるところまで来ているので、SA吹田に依頼されたイベントには全体でカバーして活動できるようになって欲しい。ただ規模にもよるが今後出来るだけ、地域密着の各ブロック単位での活動をしていけるところまでになる事ができれば理想である。
- 2、部会のメンバーは各期の統率力ある人、各市民塾、MUSの会、それにSA吹田の

役員が加わって、行事の担当、スケジュールの確認、協力関係のお手伝いなどの調整ができるよう、隔月の会議を継続していきたい。

- 3、そのための人材は、SA吹田の歌体操、おもちゃつくり、介護施設、障害者支援など各部会の皆さんが、枠にこだわらず協力していけるようにしたい。

その為の手段として 各ブロック会議に出向き、おもちゃつくりの手ほどきなども取り入れ、各市民塾やMUSの会員に講師をお願いして、地域での活動が一層活発化するように今後に期待したい。各役員方のご協力をお願いいたします。

- 4、最後に新修了生の入会後は、もっとSA吹田の行事に気楽に参加できるような雰囲気づくりをし、活動の中での生きがい見つけの手助けをしたい。その為に情報をもっともって発信しようと思う。

(部会長 八木秀雄)

年間行事（平成21年度）

活動(曜日)	場所	内容
小学校でのおもちゃ作り指導		
月曜日	千里第2小	
水曜日	東佐井寺小、片山小	
土曜日	北山田小、山田第1小、山田第3小、佐井寺小、江坂大池小	
不定期	西山田小	
主要なイベント		
1月	北山田小	昔の遊びと凧づくり
2月	市立博物館	おもちゃと凧づくり
3月	亥の子谷コミセン	いのっこ祭り
5月	千里北公園	こども野外カーニバル
5月	メイシアター	産業フェア国際プラザ
8月	市立博物館	木端細工、昆虫づくり
9月	東佐井寺、南吹田幼稚園	幼稚園フェスティバル
9月	千里南公園	よっといで祭り
10月	千里高校	高齢者との交流(竹細工)
10月	江坂公園	花とみどりのフェア
10,11月	北千里、東佐井寺	公民館文化祭(おもちゃ)

「歌体操部会」の活動

1 歌体操の原点

歌体操は「いきいき歌体操」の考案者である寺島龍子先生が、シルバーアドバイザー養成講座の3期（1990年）～12期までの「福祉ボランティア専攻」コースで指導されたのが始まりである。

これは、先生が看護師として病院や老人ホームに勤務する中で、日々の生活に意欲を失いかけている多くの方々に、少しでも楽しく健康な日々を取り戻してもらいたいとの思いから、1982年に基本体操を考案、1988年から普及活動に取り組んで現在に至り、「寝たきりにさせない、寝たきりにならない、寝たきりをつくらない」のスローガンのもとに営々と受け継がれてきている。

2 歌体操とSA吹田の関わり

福祉ボランティア専攻コース修了者が中心となり、市内各所の公民館や集会所、福祉施設などで歌体操ボランティア活動が広まっていった。

SA吹田としては歌体操の更なる発展と連携のために2006年（平成18年）度から、歌体操活動リーダーとSA吹田役員との間で「歌体操懇談会」を毎月一回定期開催することになり、お互いの情報交換を行ってきた。そんな中で2007年3月、市内の歌体操グループが一堂に会し「第1回吹田歌体操交流会」が開催されたが、これは今迄に無い画期的なことであった。

その後、2007年度には、一般市民の方々にも参加をいただき共に活動することを目指し、「心ふれあいネット」活動の中でボランティア養成講座や講習会を持つに至った。

2008年度には「懇談会」が「部会」と改められ、毎月第3月曜日午前中に定例会を開催し、その中で歌体操の実技練習を行っている。また前年に引き続き合計8回の講座を開催した。

2009年度は、吹田市まちづくり市民塾の「歌

体操介護予防ボランティア市民塾」の発足やSA連協の北ブロック（吹田、豊中、高槻、池田、箕面豊能）歌体操研修会でも主導的役割を果たした。

本年度から開講したNPO大阪府高齢者大学校の地域別交流会でSA吹田として歌体操を紹介、それをきっかけに発足した歌体操クラブの練習指導に部会として指導役を務めた。

2010年3月18日開催のSA連協主催、NPO大阪府高齢者大学校・高大同窓会連協共催の「アクティブシニア歌体操フェスタ2010」には部会 はもとよりSA吹田として全面支援をした。

3 今後の取り組み

今後の超高齢者社会のなかで歌体操発展のために、後継者づくりが何より重要である。そのためには、市内全域で活動されている歌体操仲間と連携し常に交流を図っていき、各ボランティアグループで人員が欠けた場合など、お互いに応援できる体制づくりが必要である。新しい体操の振り付けの普及も歌体操をやっている人のリフレッシュになり楽しみのひとつになる。研修会・講習会などをどんどん開催して、新しい人たちの受け入れや、歌体操の普及に頑張っ て行き、多くの方が歌体操を通して生きがいのある日々を過ごす事が出来るようにお手伝いをしたい。

（部会長 藤川安高）



「吹田歌体操交流会」活動

前述の「第1回吹田歌体操交流会」は2007年3月4日に開催されました。

目的として、①グループ間の交流と親睦、②日頃の活動成果発表、③健康増進とし、スローガンとしては「寝たきりにならない・寝たきりにさせない・寝たきりを作らない」とし、SA以外の方々にも多く参加を呼びかけました。その結果、当日の出演者160余名にSA関係者を含め総勢200名を超える盛大なものでした。その後、第2回交流会が2008年3月9日に、また第3回

交流会が2009年3月8日に開催されています。第3回交流会では吹田市長や近隣地域SAの歌体操グループをお招きし、総勢250名を超える盛大な大会となりました。

この交流会活動の成功が、その後の歌体操活動の広がりにも寄与したと言えます。

(松川 裕)



【第3回吹田歌体操交流会で出演された歌体操グループの日頃の活動状況】

(2009年3月8日開催のプログラムより抜粋)

代表者・連絡先 (06)	グループ名	会 場	練 習 日
小 桐 剛 6832-4521	グループ桐の華	北千里公民館	第2土曜 10:00~12:00 第4木曜 13:00~15:00
		藤白台市民ホール	第2・4土曜 10:00~12:00
		北山田地区公民館	第1木曜 13:00~15:00 第3土曜 10:00~12:00
		西山田公民館	第1・3金曜 13:30~16:00
岡 田 隆 6876-5567	高齢大同窓会	ちさと佐井寺図書館	第1・3日曜 13:30~15:30
	す み れ	南千里公民館	第2・4土曜 10:00~12:00
小笠原晶子 6384-3048	歌体操同好会	南千里公民館	第1・3月曜 10:00~12:00
亀岡房子 6388-3610	かようクラブ	総合福祉会館	第1火曜 10:00~12:00 第3火曜 13:00~15:00
黒川一恵 6877-5889	歌体操のつどい	山二公民館	第2・4金曜 13:30~15:30
橋本一江 6338-5360	こ だ ま	江坂大池公民館	第1・3土曜 10:00~12:00
堀 端 孝 子 6382-0763	歌体操吹一同好会	吹一公民館分館	第2月曜 13:30~15:00
		さんくす3番館5F	第1・3土曜 13:30~15:00
		吹一公民館本館	第4月曜 13:30~15:00
	歌体操東同好会	東 公 民 館	第1・3月曜 13:00~15:00
	吹 三 婦 人 会	吹三地区憩いの間	第2・4水曜 13:30~15:30
水島初代 6380-3864	歌体操同好会	千二公民館	第2月曜 13:30~15:00
三馬明子 6383-5104	吹 三 長 生 会	吹三地区憩いの間	第1・3金曜 10:00~12:00

「国際交流部会」の活動

～小学生と外国人の交流授業～

1 はじめに

国際交流部会は国際理解教育の一助として、留学生・在日外国人の協力のもと、「小学生と外国人の交流授業」を行なっています。2007年度に当時の吹田市延地教育長が当企画にご賛同され、国際交流に理解のある小学校長をご紹介いただいたのが始まりです。初年度は4校、2008年度は9校で実施し、2009年度は12校となりました。

2008年度の実績でみると、参加児童850名（9校）、参加外国人40名（14カ国）でした。外国人の出身国は「ロシア、マレーシア、ブラジル、アメリカ、メキシコ、ドミニカ、韓国、タイ、スリラン

カ、中国、ケニア、コンゴ、台湾、インド」で、五大大陸すべてに亘りました。おそらく2009年度はこれを上回る児童数、外国人、出身国となるにちがいありません。なお、活動開始の2年目（2008年度）より大阪府社会福祉基金地域福祉振興助成金が活動資金になっています。

2 授業内容

当活動は児童の英語の勉強のお手伝いではなく、異文化を体験してもらうことが目的です。授業内容は、下表のようにお国紹介、パフォーマンス交換、会食というのが標準モデルです。

プレゼンテーション (10:40～11:25)	外国人から日本語で母国を紹介 ・国旗、食べ物、景色、動物、おまつり、遊び etc. ・外国の言葉紹介 あいさつ、数字の読み方 etc.
パフォーマンス交流 (11:30～12:15)	外国人と児童のパフォーマンス交換 歌、楽器演奏、ダンス、特技 etc.
給食 (12:15～13:00)	外国人とサポーターがクラスに分かれて同席

(午前中の授業例)

① プレゼンテーション



- ・ほとんど外国人がパソコンを使って自国紹介をします。
- ・児童も見て聞いて理解が深まりました。

② パフォーマンス



- ・ 左 韓国の遊びチャギ
- ・ 中 モンゴルの民族舞踊
- ・ 右 ブラジルのサンバのリズム

③ 児童のお礼



- ・ 左 器楽演奏
- ・ 中 南中ソーランと一緒に踊りました
- ・ 右 組体操

④ 給食



- ・ 一番人気の時間です
- ・ 外国人が食べる間もないほど質問や遊び攻めです

3 課題

年間の活動は助成金申請（2月）、実績報告提出（4月）、助成金交付（5月末）、学校勧誘（6－9月）、授業実施（9－3月）と云う流れになります。従って授業が2学期、3学期に集中し、授業に参加する外国人の確保が難しいのが実態です。外国人は主に JASSO 大阪第一国際交流会館に居住の留学生、日本語センターの学生と吹田在住の主婦の方々です。そのため、吹田市立小学校35校のうち半分程度の15校

ぐらいしかサービスができません。また、大阪府社会福祉基金の助成金は3年が限度です。すでに2年が経過しましたので来年以降の運営資金を如何にすべきか思案の時期にかかっています。

この活動も4年目を迎え子ども達に人気の授業となり、外国人にも喜ばれる「小さな国際交流」に育ってきました。なんとか続けてゆきたいものです。

（部会長 田尻駿一郎）

「福祉部会」の活動

福祉部会は 2009 年に新たに発足した部会です。

基本的には学校から吹田市社会福祉協議会を通して要請があったときに活動します。

福祉教育の一環として、「車いす体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験」を取り入れる学校が多くなり、福祉教育支援で S A 吹田の出番が多くなりました。

5 月に社協担当、高齢者大学同窓会担当、S A 吹田福祉部会役員三者が、今までの経

過、年間計画、指導の方法などについて打ち合わせを重ねました。また福祉部員を募り、名簿を作成しました。

2009 年度、日本生命財団から福祉教育支援事業として助成金 47 万円を受け、以下のものを購入しました。

- ① ユニフォーム（ベスト）20 枚
- ② アイマスク 40 個
- ③ 白杖 40 本、
- ④ 高齢者疑似体験教材（基本セット）

① 研修（福祉教育支援のための学習体験など）を実施

実施月日	内 容	参加人数	特 記 事 項
7 月 10 日	車いす体験	26 人	安全に操作するポイント、各部の名前、車いすの扱い方。2 人組で体験（段差、坂）
8 月 14 日	高齢者疑似体験	19 人	基本セットを使って、各部品の名称、装着の順序、2 人組で体験。高齢になるとどんな体に。
11 月 11 日	アイマスク、白杖体験	15 人	視覚障がい者の人への基本的介助の方法、アイマスク、白杖を使って体験（声かけ、階段）
3 月 12 日	AED	30 人	AED 講習



車いす体験研修会で

アイマスク研修会に参加して Nさん

子どもたちにどのように教えるか！
アイマスクの付け方、白杖、点字ブロックの大切さなど、基本的事項を習得。

2 人一緒に廊下、階段を通過し、その難しさを痛感しました。

技術的なことも大切だが、不自由な方の気持ちになって手引きする。

距離感、段差、階段の位置など、要所では早めにはっきり伝えることなど、貴重な体験をしました。

② 福祉教育支援の実施

実施月日	学 校 名	参加人数	内 容
10月21日	佐井寺中学校（1年）240名	12人	アイマスク、白杖体験（廊下、階段）
10月23日	千里竹見小・中学校 60名	11人	車いす、高齢者疑似体験
10月28日	佐井寺中学校（1年）80名	11人	アイマスク、白杖体験（廊下、階段）
11月18日	南山田小学校（4年）190名	24人	アイマスク、白杖体験（廊下、階段） 車いす体験（段差、溝）
11月27日	山手小学校（4年）84名	10人	アイマスク、白杖体験（体育館、段差）
12月11日	吹田5中学校（1年）150名	14人	アイマスク、白杖体験（廊下、階段）
12月17日	片山小学校（4年）130名	6人	車いす体験（段差、方向転換）

福祉教育支援事業については、社協、S
A吹田、高齢者大学同窓会吹田、各学校の
担任、係と事前に目的、具体的な実施方法、

特に児童・生徒の安全面について綿密に打
ち合わせをしました。

（副部会長 阿部まり）

M小の子どもの感想（4年生）

私は、障がい者の人の体験をして「とても大変なんだなあ」と思いました。アイマスクをつけ、白杖を持って色も何も見えない世界だったので、とても視覚障がい者の方が、かわいそうだと思います。

ゆうどうは、かんたんだと思っていたけど、とてもむずかしかったです。車いすをおすのは、とてもむずかしく大変でした。だんさがある所など、ステップをふんで車いすを持ち上げるのが特にむずかしかったです。

乗るのは少しこわかったです。はじめての体験だったので、とてもきょうなけいけんでした。いろいろなことを学びました。

ボランティアのみなさん、これからもいろんな所でがんばってください。



アイマスク、白杖体験（階段）



高齢者疑似体験

「ブロック部会」の活動

SA 吹田では、吹田市内を4ブロック制で運営しています。

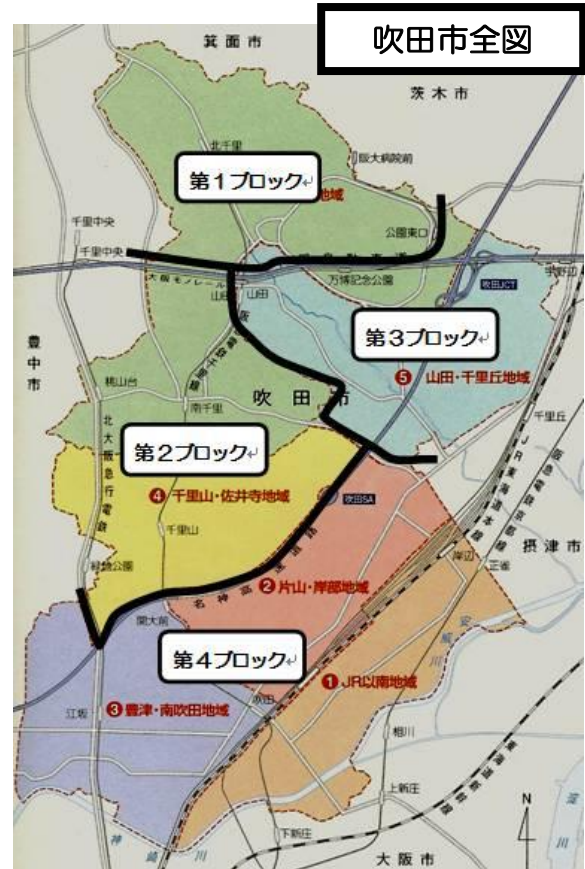
第一ブロックは、吹田市の北部・中央環状線で近くに大阪大学・千里金欄大学・国立循環器病センター・北千里体育館そして万博記念公園があり環境に恵まれた所にあります。町は、青山台・古江台・藤白台・山田北・上山田で殆どが千里ニュータウンに属しています。

第二ブロックは、千里山地区・桃山台・竹見台・津雲台・高野台・佐竹台・五月丘地区・佐井寺地区と南千里地域・亥の子谷地域と一部千里ニュータウンに属している広範囲な地域です。

第三ブロックは、中央環状線、ケヤキ通り以南の山田東・山田西・山田南・市場・長野東・長野西・千里丘上・千里丘中・檜切山・新芦屋上・青葉丘北と広範囲ですが、万博記念公園を南・西にとり巻き、さらに旧山田村の古い町並み等恵まれた環境の地です。

第四ブロックは、一部を除き北は名神道路と南は安威、神埼川まで、東はJR岸辺と

阪急正雀を結ぶ線、西は御堂筋を超えて市境まで。古い街並みの地域や丘陵地域、また江坂周辺のように古い街並みながら近年急速に発展した市街地域など様々な特色の地域です。



さて、2007年度は、我がブロック部会も懇談会と称していてSA吹田通信の宅配が主な仕事でしたが、新しい試みとして会員の皆さんからボランティア活動状況をお聞きし、今後のSA吹田の活動・目的・方向性等会員に対し浸透し理解を得るためにも、参考にしていきたいと考えアンケートを行うことにしました。

回答の結果（回答率：65%）、回答者の殆どの方が何らかのボランティア活動に参画

されています。活動内容は、おもちゃ・歌体操・マジック・国際交流・福祉関係・地域活動・環境保全等で、皆さんが色々な分野で幅広く熱心に活動されていることが分りました。

しかし、個々人の皆さんの活動は盛んでも、SA吹田の会員相互の横のつながりがほとんどない状態でありました。

2008年度は、アンケート結果を踏まえ各ブロック毎に集会を開催、会員の意見を吸

い上げると同時に会員相互の親睦を深める活動を進めました。その結果地域に密着したブロック活動の第一歩を踏み出せたと考えています。

2009年度は、さらに集会を重ねると同時に、見学会・パークゴルフ・食事会等、親睦を兼ね参加しやすい活動を企画し、会員相互の仲間づくりを進めたつもりです。

ブロック部会としても、各地域の色々な

分野で活動されている全容が段々と明確に成ってきており、また横の連携も段々と強くなりつつあります。

各部会が企画する活動に対する地域のニーズはますます広がり、その要請に応じていくためには、各ブロック内の連携・応援体制が益々重要になってきます。

今後は、お互いの親睦のもとに楽しいSA吹田に！！
(部会長 沖村史生)



ブロック懇談会



パークゴルフにて



ロビーでロナルド人形の出迎え

施設を訪ねて

「心ふれあいネット」の取り組み

～大阪府から 100 万円の助成を受けて活動を開始～

2007 年 8 月、S A 吹田が大阪府先導モデル支援事業として認定され、100 万円の助成を受けて活動を展開することになった。

先導モデル事業とは、新規性があり且つ他のモデルとなりうると認められる事業のこと。

S A 吹田が事業主体となって、当初は歌体操ボランティア活動を活性化するためのプログラム作成と実践活動をテーマに事業申請を行なった。歌体操だけでは審査会の理解を得にくく、認定が危ぶまれたが府の担当職員の強力な支援のもとに 60 ページにわたる申請書を書き上げ何とか審査会をパスする事が出来た。

それが「心ふれあいネット」活動である。S A 吹田の会員 130 名の力を基盤にして、

- ① 一般市民参加のボランティア活動をすすめる。
- ② ボランティア先のニーズに適応したプログラムを作る。
- ③ ボランティアスキルアップのための

養成講座などを開催する。

を活動の理念とし、高齢者ケア、子ども健全育成、地域コミュニティ作りを事業の柱とした。また、認可を得るためには自宅以外で事務所を構える必要があったが、幸いな事に古い文化住宅の一世帯分の部屋を無償で借り受ける事が出来て、無事認可を得ることができた。これが現在の「S A ハウス」である。

この事務所の確保と 100 万円の助成金を得ることが、その後の S A 吹田の活動に大きな力を与えた。現在の「エコおもちゃ市民塾」や「歌体操市民塾」につながり、福祉ボランティア派遣事業に発展し吹田市における存在感も大きくなり、市立博物館やコミセンでの活動に広げることが出来た。先輩の方々のご努力で築かれた活動の上に現在の活動をかぶせることによって S A 吹田の活動が更に大きくなったように感じる。

(小川忠夫)

福祉ボランティア派遣事業

この事業は、2009 年度（平成 21 年度）の S A 吹田・心ふれあいネットの事業として、会員のボランティア活動において、多少とも交通費の補助ができないかということから始まった事業です。定期的、永続的なボランティア活動実績に応じて一人一回

に付き 200 円を補助するものです。また、S A 吹田として共通に必要な材料や用品などの費用もこの事業から援助することにしました。この事業により、年間延べ人数 1000 人超の方々のボランティア活動を目指しています。活動実績を把握することに

よって、今迄表面に出てこなかった活動実態が手に取るように判るという大きな副産物を得ることもできています。

事業の資金は、事業収入と補助金を組み合わせています。(村松章良)

【登録グループ一覧表】

	グループ名	代表者	活動場所	活動内容
1	S A吹田国際交流部会	田尻駿一郎	吹田市立各小学校	小学生と外国人との交流
2	S A 1 7吹田喫茶サービス	田尻駿一郎	老健「つくも」「たんぽぽ」	喫茶サービス、車いす介助
3	S A吹田おもちゃ作り市民塾	丹羽史朗	山田第一小学校	手づくりおもちゃ
4	S A吹田おもちゃ作り市民塾	山地 登	千里第二小、わくわくタイム	おもちゃづくり
5	弘済院園芸福祉	村松章良	弘済院1特養	園芸活動
6	S A吹田おもちゃ作り市民塾	丹羽史朗	北山田小学校	手づくりおもちゃ
7	S A吹田おもちゃ作り市民塾	丹羽史朗	北山田小学校	昔遊び
8	S A吹田おもちゃ作り市民塾	丹羽史朗	江坂大池小学校	手づくりおもちゃ
9	S A吹田おもちゃ作り市民塾	丹羽史朗	メイシアター	手づくりおもちゃ
10	S A吹田おもちゃ部会	八木秀雄	吹田市内全域	イベント参加(花と緑のみ)
11	サポート吹田16	八木秀雄	海原ビル	C o C oステーション
12	(S A吹田)	八木秀雄	東佐井寺小(クラフト工作)	ひがさいっ子ステーション
13	サポート吹田16、S Aグループ18	八木秀雄	東佐井寺小(おもちゃ)	ひがさいっ子ステーション
14	サポート吹田16、S A 1 7吹田	八木秀雄	山田第3小、竹の子クラブ	おもちゃづくり
15	サポート吹田16	中家公朗	松柏学園	レクリエーション
16	サポート吹田16	中家公朗	あいほうふ	ディスコン
17	サポート吹田16	中家公朗	つくも	ディスコン
18	サポート吹田16	中家公朗	市内児童センター	ディスコン
19	サポート吹田16	八木秀雄	あいほうふ	喫茶支援
20	サポート吹田16	八木秀雄	つくも	喫茶/車いす介助
21	S A吹田福祉部会	三好桂子	市内小、中学校	福祉授業支援
22	心ふれあいグループ	村松章良	S Aサロン	パソコンサロン
23	S Aグループ18	小川忠夫	片山小学校	片山GOGOキッズ
24	S Aグループ18	小川忠夫	千里第一小学校	おもちゃづくり
25	S Aグループ18	山本隆造	西山田小学校	おもちゃづくり
26	S Aグループ18	加藤昌子	垂水デイサービスセンター	歌体操
27	S Aグループ18	加藤昌子	南ヶ丘デイサービスセンター	歌体操
28	心ふれあい歌体操グループ	加藤昌子	グループホーム「たんぽぽ」	歌体操
29	心ふれあい歌体操グループ	加藤昌子	弘済院第2特養	歌体操
30	心ふれあい歌体操グループ	船田弘子	スローライフ千里	歌体操
31	エコおもちゃ市民塾	小川忠夫	不特定	手づくりおもちゃ
32	千里高校高齢者交流会	松川 裕	府立千里高校	地元高齢者との交流会
33	吹田S A20	新崎盛哲	千里北公園	公園づくり

【福祉ボランティア派遣事業スナップ】

SA17 吹田喫茶サービス



たんぽぽ



あいほーぷ



つくも

サポート吹田16



C o C o ステーション



上：千1小
右：片山小

SAグループ18 おもちゃづくり



心ふれあい歌体操グループ



たんぽぽ



弘済院第2特養

弘済院園芸クラブ活動



S A吹田おもちゃづくり市民塾



北山田小 昔遊び

エコおもちゃ作り市民塾



千里高校「高齢者交流会」活動

～ 7年目を迎える高校生とのふれあい ～

「地域で生き生きと活動されている高齢者の方々と交流することにより、生徒自身が生き方を学ぶことができる」との家庭科の先生の考えから、地元の老人大学に相談されS A吹田を紹介された。奥（14期）さんが受けられ、これが契機となって2003年（平15）第1回目の交流会がスタートすることになった。内容は伝承おもちゃづくりの竹細工の体験で、「竹箸」と「ぶんぶんごま」を製作しながら話し合い交流する授業である。生徒数は320余名でS A参加者は約60名にもなる。

その後、毎年恒例行事となり今年7回目を経験した。2回目には歌体操やマジックも取り入れ好評であった。最近年末には製作した竹箸を使って、生徒手作りのおせち料理をいただきながら会話の場をもった

り、新たに食生活改善研究活動の生徒グループから、高齢者の健康によい食生活の提言を受けるなど交流や親睦が一層深まっている。また授業後は生徒・S A各々の感想文を交換しあって勉強している。

（松川 裕）



～ 共に活動する仲間たち ～

S A吹田おもちゃづくり市民塾

塾長 丹羽史朗（12期）

当塾は、‘02年8月に「吹田市まちづくり市民塾」第一期の一つとして始まりました。

その2年前から始めたおもちゃづくりの活動が軌道に乗り出し、更に行事が増えてくる気配があって、「サア21吹田」のメンバーだけでは人手不足になることが懸念されたので、一般市民の方々を戦力に加えようという狙いがありました。（その頃、S A吹田は再発足したばかりで、どれほど戦力として期待できるか未知数でした。）



もう一つの動機は、市からいただく業務委託契約料が大きな魅力で、ハサミを揃えたり、幟を作ったり、野外活動用のパラソル付テーブルを買ったり、交代で指導に当たる塾生の講師料を払ったりなど大いに助かりました。できた！ まわった！ とんだ！ こらおもろいわ！ 友達にも教えたろ！ の声を聞くのが子どもたちにおもちゃづくりを教える最大の楽しみです。

私たちが子供の頃は、どこにでもガキ大将がいて、神社やお寺の境内や児童公園などで近所の小さな子ども達を集めて、かく

れんぼや鬼ごっこといった遊びの合間に、おもちゃのつくり方や遊び方、そして道具の使い方を教えてくれました。ガキ大将たちは一見乱暴なようでも親切だったし、少々の怪我なら親も笑って済ませる雰囲気の中で、遊びを覚え、年下を労わることを覚え、肥後守を使えるようになって大人に成長していったものでした。そんなコミュニティが少なくなってしまうのが私たちがガキ大将の代わりを務める必要が、この先ずっと続くのだと思います。S A吹田おもちゃ部会などと協同して、ますます頑張っていかなばと思っています。

毎月第二土曜日の午前、北千里公民館で例会を開催しています。興味のある方は一度覗いてみてください。初心者大歓迎です。



MUS の会

代表者 増山彦一(13 期)

私たちの MUS の会(創作おもちゃ研究会)は、平成 6 年 10 月に当時 SA 世代間交流の講座を受講中の 7 期生の 12 名(市内居住者 8 名、市外居住者 4 名)の皆さん方によって結成されました。



以来 15 年を経過しましたが、その間新しい入会者があって、多い時には 27 名(平成 13 年)の会員を擁していましたが、その後会員の高齢化や健康上の理由などにより退会者が出る一方、新しく入会して頂く方もあって、現在の会員数は 18 名です。

結成当時それに参画したメンバーの皆さんが、受講中に習得したおもちゃ作りの知識を活用したボランティア活動の場を求めて、市役所の関係課(現在は児童部子育て支援課)と

相談され、当時市内に 6 ヶ所あった児童館(児童センター)や公民館に直接出向いて、年間の行事計画に加えていただくようにして、活動の場を開拓されました。その結果、現在の私たちの主な活動の場は、市内 10 ヶ所(本年 10 月に 1 ヶ所増加)ある児童館(児童センター)と 2 つの公民館です。そのほかにも毎年、市の団体が主催する各種イベントにも積極的に参加しています。

平成 20 年度の活動の実績は、各種イベントに参加した会員数延べ 85 人で、延べ 1780 人の子供たちといろいろなおもちゃを作って、楽しく交流しました。

これからも会員を増やして、活動の場をひろげていきたいと願っていますので、入会ご希望の方は 電話・FAX 6388-0375(夜間)・・・増山までご連絡下さい。

(註:MUS の M はメイト<仲間>、U は遊ぶの<遊(ゆう)>、S は<吹田>の頭文字です。志を同じくする仲間が、おもちゃ作りを通して、子供たちと楽しく遊びながら、世代間の交流をする吹田のボランティアサークルという意味)

エコおもちゃ作り市民塾

塾長 小川忠夫(18 期)

2008 年 8 月、吹田市まちづくり市民塾に応募して、今までの「おもちゃづくり」とは少し形の違う「おもちゃづくり」を目指して「エコおもちゃ作り市民塾」が認可を得て発足しました。

このごろの子どもたちはナイフなどの刃物を使うことなく大人になって行く。親も学校も危険なものから遠ざけて、危険な事は絶対にさせないと言う思いから、手指を使う事が苦手な多くの子ども達を育ててい

った。刃物を使う事は、ものづくりの原点であり手指の感覚を覚え脳と心を育てる大切な、子ども達にとっては重要な成長のための一過程である。このような観点から平成21年度に吹田市まちづくり市民塾に応募した。それが評価され市民塾の認定を受けた。塾長、小川忠夫 副塾長、増山彦一



会計、船田弘子 と5人の運営委員で構成し総勢24名で発足した。講師にはシルバーアドバイザー養成講座の松井鴻氏にお願いした。山五公民館、吹田市博物館、亥の子谷コミセンなどで子ども達と一緒にナイフを使い、道具を使い市民塾としての活動をおこなっている。



イン吹田・いきいき歌体操グループ

顧問 橋本一江（6期）

1992年（平成4年）に大阪府シルバーアドバイザー養成講座修了者の有志により設立して、もう18年が過ぎます。

設立以来ボランティア活動の必要性を認識しながら講習会、練習会を通して歌体操の腕を磨いてきました。

現在の活動は、会員それぞれのグループが市内20ヶ所を越える福祉施設や公民館などで意欲的に活動を続けています。

また、吹田市主催の「みんなの健康展」や「体操フェスティバル」などに毎年参加し、歌体操の普及に努め、健常者も障害を持つ人も共に助け合って、「寝たきりゼロ」運動をすすめ、明るい町づくりにも貢献しております。

2008年9月には、この長年の活動に対し

て大阪府知事より表彰される名誉にもあづかりました。



SA 吹田では最近各部会の活動に力を入れておられます。SA吹田歌体操部会も、新しい課題に挑戦できるような雰囲気になってきたように感じています。今後ともSA吹田にはいろんな面でご指導いただき、行事等では互いに協力しながら、研修会・講習会などをどんどん開いて、新しい人たちの受け入れや、歌体操の普及に頑張っていきたいと思っています。

多くの方が歌体操を通して生きがいのある日々を過ごす事が出来るように、お手伝いをしたいと願っています。



歌体操介護予防ボランティア市民塾

塾長 橋本一江 (6期)

歌体操の裾野を広げると同時に指導者育成とボランティア要員の増加を目指し、2009年(平成21年)度の吹田市まちづくり市民塾に応募して、「歌体操介護予防ボランティア市民塾」として認定されました。

塾長 橋本一江 副塾長 加藤昌子 吉田玉栄 会計 井口とみ子の布陣と10人の支援者グループを結成し総勢50人の大市民塾が誕生しました。

講師には「健音体操研究会」の前田弘美氏、「イン吹田・いきいき歌体操クループ」の小桐剛、唐崎キミ子、堀端孝子、三馬明子、浦井恵子の各氏にお願いしています。

一年目の活動を終え2年目の活動として福祉施設へのボランティア実習から取り組み、ボランティア活動の拡大を目指し活動を展開していく計画であります。



◇◇ サア 2 1 吹田 ◇◇ ～誕生から解散まで～

代表 丹羽史朗（12 期）

2000 年（平成 12 年）4 月初旬、S A 修了を記念して花見の宴を万博公園で開催しました。

当時の S A 吹田（支部）は、説明会でお話を伺っても、何をどのようになさっているのかさっぱりわからず、それでも 10 名程は入会されたのですが、「頼むに足らず」という意見が大勢を占めていました。そのため今後の活動をどうすべきかを酒を酌み交わしながら話し合うのが目的でした。

当日はあいにくの大雨で、参加者も少なく、公園内の屋台で買った酒を飲みながら少ないなりに盛り上がり、1 年間一緒に勉強した仲間、このまま別れになるのはもったいない。我々だけで活動しようということになり（当然のことですが）、5 月になって 26 名中 24 名が同意、「S A 吹田 2 1」を結成しました。

初代会長は上山さんでした。活動内容はおもちゃづくりと歌体操が中心、国際交流は吹田国際交流協会や阪大留学生センターと連携しながら、ホストファミリーや日本語教室のお手伝いをしよう。そして勉強会と情報交換、行事の打ち合わせのために、毎月第一月曜日に例会を持ちました。

翌年、13 期生の方たちを統合せんがため、

「サア 2 1 吹田」と改称し、2 代目会長に私（丹羽）が就任しました。サアは S A、21 世紀に入るといので 2 1、「サア 21 世紀に入ったぞ」という意味でした。

例会では、毎月世代間の人たちが交代で、一つづつおもちゃのつくり方を教えてくださいました。歌体操組は、自分たちの活動が忙しくなったからか徐々に退会されていき、13 期生を迎えて 35 名に増加した会員数も、'03 年頃には減っていきました。

さらに忙しくなられた方、転居された方、ご自分やご家族の病気其の他の理由で活動ができなくなった方が多くなり、片方では S A 吹田の活動が活発になってきたことから、とうとう'08 年 4 月に総会兼お別れ会をすることになってしまいました。

「同期の集まりも意義があるが、そのうちに高齢化に伴って同期会は縮小せざるを得ない。そのためには S A 吹田に加入して、タテの繋がりも大切にしてほしい」と常々申し上げてきておりますので、その典型だと感じ取っていただきたいと思います。

ただ、サア 2 1 吹田で培ったノウハウは S A 吹田に全て移し、活動の基礎を形成し得たこと、そして後継の会長さんたちが新しい活動を加え、S A 吹田に華が咲いた。

◇◇ 13 期の枠を超えて活動 ◇◇

小北 月子(13 期)

SA 世代間交流 13 期修了後の活動の始まりは、大阪市平野区の全興寺の遊び縁日でした。毎月 1 回、おもちゃを準備して通っていました。

SA 吹田が再発足し、地元の行事が増えてきたことや、他の SA 大阪が関わってきたことで、全興寺での活動から離れて行きました。



13期生だけの纏まっでの活動はありませんが、世代間交流の仲間では、SA吹田おもちやづくり市民塾、MUSなどで活動が続いています。1か月に数回、児童館、小学校などおもちやづくりと一緒に活動しています。13期生だけで何かをするということではなく、期にこだわらず、色々な期の方

たちやSA以外の方たちと交流を深めています。

自分たち同期だけでの活動では、年を重ねるとともに段々活動が出来にくくなってしまいます。同期の枠を超えて活動をしてきて良かったと思っています。

”なんでゃネン!?”

～ボランティア市民グループ ドリーム・ネット～

代表 田邊 昭 (15期)

当グループは標題を世情の本末転倒に問題意識を持ち解決を図ることを意図し、当会の前進を25カ月を目途に、ホップ・ステップ・ジャンプと方向づけ、夫々達成をした。

現在の重点活動は、稍もすれば社会的弱者として追い込まれる60歳以上の一般男女を対象に、脳・五感を活性化し華麗な黄金期を迎えるための、大人の寺子屋方式の「華金塾(ハキンジュク)」と、両翼として「懐かしい歌声の集い」と免疫性を高める「料理実習教室」を適時実施し好評をいただいている。塾はグループトレーニングでユニークな6カ月ごとの修練カリキュラムを組み、楽しい効果を挙げつつあり参加者も増加している。高齢化するメンバーも毎回全



力投球で生きがいを感じて活動中ですが前述のジャンプ中の着地点は塾生たちの心と技の中に植え付けられ、夫々の所属されるグループの中で受け継がれ開花していくものと期待しつつ、今ある場所で縁する人々の幸福実現へ微力ながら頑張る日々です。

◇◇ サポート吹田16 ◇◇

代表 八木秀雄 (16期)



平成16年3月「住みよい吹田をめざして」を目標に24名で、立ち上げたボランティア・グループです。あれから今春で満6年をむかえます。児童養護施設の松柏学園を始め世代間交流、老人施設や障害者施設での新スポーツ「ディスコン」で少しでも体を動かすようにと訪問しております。月例

会も工夫をして昨年から隔月にして、お楽しみ会をいれ、身近な問題をディスカッションして勉強をしながら頑張っております。



あいほうふ(ディスコン)

2010年も気分を引き締めスタートいたします。



松柏学園(スプラッシュ)

◇◇ SA17吹田 ◇◇

～ 和気あいあい 17 期生 ～

河内義明(17 期)

平成16年度シルバーアドバイザー養成講座(17期)を受講修了した吹田地区出身者は29名でした。専攻内訳は国際交流:6名、世代間交流:7名、福祉:6名、地域活動:10名です。そのメンバーの名称を「SA17吹田」とし、これまで個人・グループでのボランティア活動を実施してきました。

主な活動内容としては、国際交流では留学生の日本語会話力向上と日本文化理解等の支援、小学生と留学生との交流の場作りなどの活動。世代間交流ではおもちゃ作りを中心に、いろいろな吹田市のイベント会場での活動と市民塾活動。福祉&地域活動は「あいほうふ」・「たんぽぽ」・「つくも」などでの喫茶提供の支援活動など。

またグループ全体の活動としては総会&定期集会の実施。総会終了後は決まってアサヒビール見学会を開催。

定期集会の内容としては、科学マジック・おもしろおもちゃづくり・おもしろ折紙・洗濯はさみで椅子づくり・手話コーラス・傾聴ボランティア(講話)・高齢者を狙う悪徳商法(講話)・

見学会・インスタントラーメン作りの体験・パークゴルフ大会など。

また時々行う「飲み会」になると、何故か大いに盛り上がり談笑絶えず和気あいあい。

基本は「余り無理せず、出来ることからコツコツと」です。活動や懇親会を通して、みんなと一緒に交流を深めるための行事を多く計画して、楽しく明るいボランティアグループとして今後も活動を継続していきます。



◇◇ SAグループ18 ◇◇

代表 熊田真也（18期）

2006年（平成18年）3月に講座を修了した18期生は地元吹田在住者が30人を超える大所帯のため、講座での地域別活動は、A・B、2班に分かれておこなわれていた。

しかし講座終了時には、このA・B班を統合して一緒に活動することにして「SAグループ18」を発足させた。具体的なボランティア活動は、専門コースを踏まえ、3～4人の小グループを作って、それぞれがボランティア先や活動内容を決めていった。

おおよそ半年後には市内10拠点で活動するほどになっていた。

パソコン勉強会を開催して、メンバー30人中、実に29人がメールのやり取りができるまでになるなど楽しい思い出もある。また、メーリングリストの活用やホームページ開設もおこなった。

2年目以降には社協や市役所からの助成金申請にも成功し、我々が最初に始めたボ

ランティア活動は現在も継続している。

ほぼ毎月活動している先としては小学校4校（おもちゃづくり）、老人施設4ヶ所（歌体操と野菜づくり）がある。マジックやしめ縄作りもおこなっている。実はこれらの活動の経験が、現在のSA吹田の助成金確保やボランティア派遣事業などの活動に反映されていると言ってよい。



例会での歌体操の練習

◇◇ 講座修了から現在まで ◇◇

～ 広い分野での活動 ～

田原美佐穂（19期）

私たち19期生は、平成19年3月にSA養成講座を修了しましたが、府立老人総合センター（北部講座）での最後の受講修了生です。

19期の修了生は養成講座時代からの活動を今日まで継続している人々、また現在は養成講座時代とは異なる活動をしている方々と様々ですが、個々に多才に満ちた人の集まりです。

養成講座を修了して地域活動の拠点であるSA吹田に入会するときは、人生の折り返し点をとくに通過したにもかかわらず、魔法の国の扉を開ける思いでした。

それから3年経ちました。

受講生の時から活動が続けている「たけとんぼグループ」は、アドプトロード（万博外周道路の清掃および除草など）、竹林の整備（竹の伐採など）、老人ホームでの喫茶サービスなど、暑さ寒さの中で喜々として活動を継続されていますが、今なお継続できているのは人と人との繋がりを大切にしているからだと思います。重ねた歳を感じさせないパワーはすごいです。

SA吹田の活動の輪も広がりました。

国際交流部会が発足しそれに参加しています

が、小学校と外国の方との交流はすばらしい企画だと思います。外国の方から直接に聞く異文化は児童にとって、新鮮であり異文化理解に繋がっていくと思います。

21年度は福祉部会がスタート。車椅子、アイマスク、高齢者擬似体験などで吹田市内の小、中学校の生徒に接したとき、真剣に取り組んでいる姿に感動しました。

SA 講座を修了してから3年の間に色々な分野でのボランティア活動に参加しています。

楽しみながら貴重な経験と多くの仲間づくりをしてきました。これからも、声をかけあって元気で活動を続けていきたいです。SA 吹田の魅力は何事に対しても Positive な姿勢だと思います。



◇◇ 吹田SA20 ◇◇

金馬弘昌（20期）

2008年（平成20年）春、SAを修了した我々吹田在住グループは吹田SA20と称し、活動を始めました。

修了時での共通活動目標は、千里北公園東部地区の造園と山田弘済院での園芸クラブ者支援としました。



千里北公園はもともと街路樹の植樹、成育の場所であつたらしく、数年前から市民参加の手作り公園が、計画されている所です。延参加者数も少なく、雑草との闘い、荒地開墾、樹木の切除等大変です。しかし最近では花壇等も拡大整備され、季節の花も美しく、公園も一部ですが開放されてきています。

山田弘済院は先輩のグループに参加、協力し

ています。院内の土地を畑や花壇として、良く手入れがなされているようです。花、野菜等の地植え、鉢植え等も入院の方と共に協同することもあります。何より楽しいのは、その方々の収穫作業の手伝いです。車椅子で来られ、芋を掘り、大根を抜いて微笑を浮かべる人、無表情な人を問わず、ともに参加している喜びを感じます。

その他 施設での介護歌体操、小学校での国際交流、おもちゃ市民塾、小学校での指導等、地区SAとして活動参加の方もあります。或いは個人で活動の方もあり、アイホープ障害支援センターでの参画や吹田環境学習教育に参加、環境保全、学習改善に努めるメンバーもいます。

ボランティア活動ではありませんが、特記すべき2人がおられます。即ち、一人はお年ながら、水彩画に秀でられ千里で指導もし、作品が時々市役所に展示されている方。もう一人は女性ですが、時々催す我々交流会、飲み会には欠かせない方で、素直に親しく話せ、我々に何時も元気を出させてくれる方です。この様なメンバーですが、元気で長く活動し、交流をも続けたいと思います。

～ S A吹田と私 ～

歌体操への思い

橋本一江（6期）

S A吹田は途中屈曲があり、休会の時期がありました。12期の丹羽会長の時、S A修了の方々の団結で活気ある会としてS A吹田が誕生し、再出発できたことは本当に喜ばしい事でした。以後、若い各期の修了の方々の前向きな活動の成果が実を結びこのたび 20 周年の式典を迎えた事に感慨深いものがあります。改めて創立 20 周年のお祝いを申し上げます。

私達S A吹田のボランティアグループは、おもちゃづくりグループ、歌体操グループが両輪として永年活動してきました。歌体

操グループは今迄、後継者の心配をして参りましたが、幸せな事に若い期の修了の方々が歌体操に関心を持たれ、寺島先生の歌体操を継承しつつ新しい体操も取り入れ研究会、研修会に参加し頑張っています。心強いことです。S A吹田の歌体操もしっかりと根を張った大木に成長しつつ、ボランティア精神を忘れず、楽しく、そして皆に愛されるグループとしてS A吹田の発展の一助になりたいと思います。

当時を想う

橘ユミ子（14期）

S A吹田 20 周年おめでとうございます。定期発行のS A吹田通信も早や創刊号より 80 号を越えられ、ますますの活動の広がりや会員皆様の貢献に感動しております。

当時S A養成講座修了時期にS A吹田の組織活動の停滞を知りました。

丹羽さんをリーダーとして 12 期、13 期の皆さんのご尽力で、呼びかけに参加させてもらって、大阪府S A連絡協議会と新生S A吹田の位置付けを知る事ができました。

そしてS A吹田での活動の方向性をわたくしなりに模索する中、おもちゃ作りの活動を吹田市のまちづくり市民塾として業務委託契約を結ばれ展開されることになり、おもちゃ作りはやや苦手の自分でも、頑張っ

てチャレンジしていこうと参加すること

にいたしました。

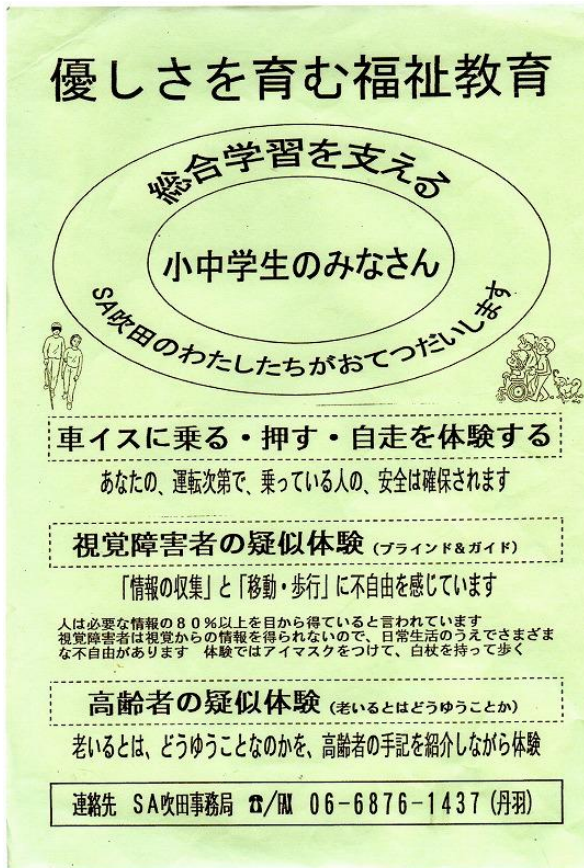
しかし、そんな矢先に突然家族に病人が出て、介護と見守りが必要となりました。私なりにボランティアの関わり、楽しみを知るチャンスだったのに、悔しくも活動を断念せざるを得ませんでした。現在は地域活動コーディネーターとしての関わりにと思い地域で頑張っておりますが、S A吹田通信によってS A吹田の活動の広がりなどの情報を得て心豊かにしております。

「楽しく愉快地にボランティア活動ができるのも元気あってこそ」です。皆さんの元気が羨ましくも思われます。会員の皆様、S A吹田の益々のご発展を祈ります。くれぐれもお体をご自愛ください。

知られざる取り組み

三好桂子（13 期）

福祉教育の出発点となった「チラシ」を掲載します。活動の全てはこの1枚から始まったのです。



車椅子・アイマスクなどについてはSA吹田通信71号に掲載してありますので省略します。

当時(2003年頃)は「公園に設置した遊具」による子どもたちの事故が多発していました。私たちも事故防止に一役かいたいと考えた結果、素人でも出来る点検に取り組むことになりました。目で見て、手で触ってねじの緩み、鉄棒の両端固定部分の緩みなどを調べることにしました。居住地の公園、外出先の公園などを廻り不具合な箇所を発見次第、吹田市公園課に報告、微力ながら市民の目を通しての改善に協力しました。

時を同じくして東京都荒川区の公園に

「健康器具」が設置されたことをNHKテレビで放映したと、小北さんから情報が入りました。私たちは直ちに荒川区役所に問い合わせの電話を入れ、健康器具に関する資料、ビデオを入手しました。それを元に健康器具の会社にも電話を入れて趣旨を説明、カタログを送付していただくなど情報収集に努めました。

介護予防に役立ち、吹田市の公園にも設置しようと資料に私たちが作成した企画書を添付、ビデオテープと共に公園課に提出、検討を依頼しました。吹田市では既に取り組みが始まっていることが判明しましたが、設置されているのはごくわずかでした。

そこで、設置されている公園の観察をし、幾度か公園課を訪問、設置を促しました。

今でこそ「健康器具」の設置は普及しており、利用者も多くなりましたが、当時は「健康器具って??」というありさまでした。普及した背景には私たち市民側の働きかけがあったからと自負しています。

私たちは常にアンテナを高くかかげて行動しましたが、残念ながらSA全体を巻き込んでの取り組みには至りませんでした。

事例： 南千里公園には「腹筋ベンチ」「ツイストボード」「パラレルハンガー」の3種類が設置されています。「パラレルハンガー」とは懸垂器具で、私は「ツイストボード」を利用しています。



私の趣味：マジックとボランティア

見並泰男（19 期）

私は会社の定年と同時にマジックを習い始め、さらに精進するためにプロの深井先生の門をたたき指導して頂きました。



マジックに対して多少自信が深まって来た頃からボランティアを始めました。老人ホーム・デイケア・学校・幼稚園などの施設で年齢は3歳～90歳位までと幅が広くお客様の年齢に応じて喜んで頂ける出し物を心掛けております。3歳までの子供の時は付き添っているお母さん向けのネタをやり、なおかつ子供の視線を外させない物

を選び、6歳迄の幼稚園児には童話的な話の出来るものを、小学生には野次が多いのでマジックのネタが想像できる様な物でなく、出し入れが早い物やネタばれしにくい物をします。

大人には、テレビで放映されたようなネタをすると「テレビで見たことある」と評判も良く喜んで頂けます。

一番難しいのは80歳を超えられた方で、普通に演技しても反応が少なく拍手や笑いもなかなか頂く事ができません。そのような時でもリアクションを大きくし、拍手のタイミングを音や道具で合図したりと工夫をしています、そこで、笑いや拍手を頂くと感無量の喜びを感じマジックをしていて良かったなと実感します。

マジックは皆様にも楽しんで頂き自分自身も楽しめ、私にとって最高のボランティアだと思っております、ボランティアをさせて頂く皆様に対して感謝の気持ちで一杯です。これからも、日々勉強し成長し続けたいと願っております。

◆ 編集後記 ◆

S A吹田創立 20 周年記念行事の一環として、ここに「S A吹田 二十年の歩み」を発刊することができました。多くの皆さま方のご支援、ご協力に対し心より感謝申し上げます。

創立から今日までの「歩み」をできるだけ多く収集すべく試みましたが充分ではありませんでした。S A吹田として、総会記録、会員名簿、活動記録などの共有、保管の大切さを痛感しました。また、紙面の都合上、活動のほんの一部しかご紹介できなかったこと、申し訳なく思います。不十分な部分を補完する為にも、会員の皆さまにおかれましては、是非とも「S A吹田通信」などへの投稿を通じ、思いや活動をご紹介いただきたいと思います。

この「S A吹田 二十年の歩み」が、私たち一人一人の今の立ち位置を見直し、今後の活動の充実・飛躍に役立てば幸いです。
(村松章良)

編集担当（敬称略） 内田格子 小川忠夫 金馬弘昌 熊田真也 土岐剛三
松川 裕 村松章良 (50音順)

【資料：S A吹田歴代役員（2002～2009 年度）】

平成	14	15	16	17	18	19	20	21
西暦	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
会長	丹羽史朗	丹羽史朗	丹羽史朗	武内 信憲	武内信憲	佐藤宏一	小川忠夫	小川忠夫
副会長	堀 博	橘 ユミ子	橘 ユミ子	奥谷英夫	奥谷英夫	小川忠夫	松川 裕	松川 裕
	岡本 茂	奥谷 博	武内信憲	河内義明	佐藤宏一	田原美佐穂	武井 貢	村松章良
								金馬弘昌
総務	岩城延重	岩城延重	奥谷英夫	奥谷英夫	河内義明	田尻駿一郎	田尻駿一郎	田原美佐穂
	増山彦一		武内信憲	佐藤卓士	太治利昌	村松章良	田原美佐穂	土岐剛三
							金馬弘昌	藤本美貴子
会計	小北月子	小北月子	小北月子	宮浦 ミネ子	宮浦 ミネ子	加藤昌子	加藤昌子	内田格子
情報・広報		武内信憲	武内信憲	大野宣子	大野宣子	松川 裕	松川 裕	金馬弘昌
			奥谷英夫	中内和恵	中内和恵	森 孝二	熊田真也	熊田真也
				松川 裕	松川 裕	藤川安高	森 孝二	森 孝二
					村松章良	中込喜雄	藤川安高	村松章良
					森 孝二	松尾悦子	新崎盛哲	藤川安高
企画 部会担当等	佐藤百合子	佐藤百合子	佐藤百合子	佐藤百合子	佐藤百合子	佐藤百合子	丹羽史朗	村松章良
	森田 弘	森田 弘	岩城延重	丹羽史朗	丹羽史朗	丹羽史朗	八木秀雄	加藤昌子
	橘 ユミ子	三好桂子	三好桂子	三好桂子	奥 正昭	奥谷英夫	久賀俊秀	藤川安高
	服部準之助	奥 正昭	奥 正昭	奥 正昭	大平節子	八木秀雄	佐藤宏一	加藤昌子
			奥谷 博	奥谷 博	八木秀雄	久賀俊秀	村松章良	井口とみ子
			安藤為彦	大平節子	阿部まり	熊田真也	沖村史生	八木秀雄
				八木秀雄	小川忠夫	村上正	中込喜雄	久賀俊秀
				阿部 まり	加藤昌子	沖村史生	藤川安高	熊田真也
				櫻井辰一		見並泰男	村上 正	田尻駿一郎
							藤本美貴子	一井謙三
							井口とみ子	三好桂子
							森崎和明	阿部まり
1ブロック長	小北月子	小北月子	宮浦ミネ子	宮浦ミネ子	小北月子	村上 正	村上 正	村上 正
2ブロック長	橘 ユミ子	橘 ユミ子	八木秀雄	八木秀雄	八木秀雄	熊田真也	熊田真也	熊田真也
3ブロック長	奥 正昭	武内信憲	奥 正昭	奥 正昭	村松章良	沖村史生	沖村史生	沖村史生
4ブロック長	岩城延重	岩城延重	大野宣子	大野宣子	小川忠夫	藤川安高	見並泰男	見並泰男
監査	藤岡 武	藤岡 武	藤岡 武	岩城延重	岩城延重	岩城延重	奥谷英夫	奥谷英夫
	中井史朗	中井史朗	森田 弘	安藤為彦	安藤為彦	奥 正昭		佐藤宏一
顧問								丹羽史朗

SA吹田 二十年の歩み

発行日 2010年3月吉日

発行者 SA吹田会長 小川 忠 夫
吹田市原町 3-7-2

ホームページ <http://sa-renkyo.sakura.ne.jp/active/suita/index.htm>

印刷 株式会社 アズマ

*本書を無断で複写、転載することを禁ず

